

北海道当別高等学校（園芸デザイン科）の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和 5 年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	総探学習の中で地元当別の歴史や農業を学ぶ中で、課題解決力や想像力を身につけていく。 農業クラブの各行事を通して、生徒の積極性や協調性を高める。	当別町を知る学習、キャリアフェスティバル等で知見を深められた（1年）。2・3年生はインターシップを通して当別農業を知れた。 農タ行事に各自が積極的に取り組めた。	学科で行う総探授業内容をしっかりと残す。 （リニューアルさせながら）インターシップの効果を高める為に事前・事後指導（内容）を徹底する。 教員自身も地域を知り、連携へ繋がる機会に積極的に関与する。	3
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	当別町、北海道そして日本の農業の現状を提示して、世界の農業（食料生産の重要性）と比較した時の問題点等に関心を持ってもらう。	課題研究の各専攻班で、地域や農業の抱える問題を意識した活動を行っているが、学科全体で、この課題について学ぶ場を設けてもよいと考える。 2月に町の地域起こし協力隊活動をOBが講演予定。	各授業の中で、更には行事等を組んで、日本農業が抱えている問題に触れ、考える機会を意識的に設けていく。 農業新聞等の記事も有効に活用していく。	3
Ⅱ 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	当別高校圃場環境に適した野菜・作物等を試作栽培すると共に、多品目栽培・省力栽培で利益をあげることを考えていく。	水田40aを除くと、狭い圃場の為、小さい農業で収益を上げることを意識している。 堆肥作りを始めた。生産物の販路が増えた。 猛暑等で、高温障害を受けた野菜が出た。 アグリノートの学習。	品質や圃場管理の向上を目指す姿勢の継続。 地域販売を増やし、本学科の活動を地域に知ってもらう。高温に対応する栽培の工夫や作柄・品種選定等。スマート農業の学習。 アグリノートを使った記録管理へ。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	当別町は稲作が盛んであり、本校でも40a程作付けしているが必ず発生する「くず米」を有効活用したい。 今年度はくず米を使った加工品を完成させる。	くず米加工利用の研究班（クッキーやα米）が、町内外に活動をプレゼンできた。 1月、産官学連携で「米袋のデザイン化」の学習を開始（6次産業化の学習）。加工室の改善・加工実習開始。	他の専攻班、授業でも6次産業化学習を進める。 農業新聞等の記事も有効に活用していく。米袋デザインを決定させ、新年度、生徒デザインの米袋で地元生産法人米の販売実習を行う（地元スーパー）。	4
Ⅲ 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	当別高校圃場で、化学農薬だけに頼らない病害虫・雑草防除に取り組んでいく。 圃場における生物多様性を意識する。 農場の残渣物で堆肥づくりをはじめめる。	野菜・作物に関して減農薬栽培を実践できたが、品質や圃場管理でまだ向上の余地有り。 通路・法面等の草地の保存（強害雑草は退治）。 堆肥化に着手（草花用土の消毒）。	持続可能な農業生産。循環システムづくり（漉き込み・仕分け/堆肥化・草花用土の消毒等の継続・改良）。 化学農薬の使用を減らし、環境・経営に優しい農業へ転換の必要。生産物の品質向上。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	当別町の特産品である「亜麻」に関する研究や関連活動に参加する。	当別ダム花壇の土壌調査や亜麻栽培に適する、用土割合を知る為の生育調査。 亜麻苗提供、亜麻祭り参加等。 くず米の利用研究。 亜麻公社主催のピーツ研修会へ生徒参加。	亜麻の普及活動。 くず米の利用研究。 ピーツの栽培・活用に関する研究等。 今後も、地域課題・振興に関わっていけるようにする。	4
Ⅳ 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	北海道造園緑化建設業協会主催の現場見学会参加。 販売会、寄せ植え講習会、田植え・稲刈り交流会等を開催。（町民・幼稚園児等） （ドローン講習会の受講）	造園現場見学会参加し、農業分野の仕事のの見識を深められた。 なかった地域交流事業を再開。産官学連携で役場や当別町農家・企業との事業が開始。 スマート農業の学習。	進路選択を広げる活動の場を更に設ける。 各種、行事の内容を生徒主体で改善。 産官学連携事業の結びつき強化。還元できることを、産官の力を借りながら増やす。 スマート農業学習の深化。	5
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	冬期は暴風雪で休校となる場合もある。 本校生徒のみならず、町民の方々が雪の事故に遭わないよう注意喚起する。 交通安全キャンペーンへの参加。	日頃のSHRや各授業で事故防止や防災等の意識づけを行っている。 交通安全キャンペーン参加（農タ）。 2月除雪ボランティアに生徒参加を促す。	普段の生活や実習・授業で、危険予知・予防の意識付けを継続して行う。 設備整備の要望継続。実習現場等の整理・整頓と修繕を進める。	3